

第4回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年8月31日(土) 13時～17時
- ◇会場 森と水の源流館
- ◇参加者 川崎(川上小)、辻本・中谷(あやの台小)、新宮(平城小)、島(郡山西小)
尾上・木村・上西(源流館)、中澤(きんき環境館)、北村・中澤(奈良教育大学)

◇内容

E S D学習指導案の検討

- (1) 4年生総合：地域を流れ秋篠川の役割とこれからの私たちの生き方を考える：平城小・新宮
- 既習の秋篠川と比較する形で吉野川を見て、聞いて、ふれて、感じる
吉野川を見る視点：「役割」で見学する。
- レクリエーション的役割にも気づかせる
- 吉野川の役割・展示物から学ぶことができるか。
子どもが見つめてきた個別の役割を
「運ぶ」：川上村劇場ムービー
「農業」：写真展示
「海の恵み」：シアター
「生き物のすみか」：シアター
「遊び・レクリエーション」：午前中の探検・弁当開き
「人のつながり」：特別展示
「伝統文化」：千本づき、ポスター、遺跡展示
「飲み水」：おいしい水を飲む体験 などで整理する。
- ・時間制限があるので、「テーマ」を与えてグループごとに館内を探索させる方がいいかもしれない。
 - ・グループにテーマを複数あたえる あとで関連付けを考える事前学習にもなる。
 - ・川の多様な役割に気づく子どもを育てる。秋篠川に対する関心を高め、かつての秋篠川の様子について聞き取り調査をする。
 - ・水をきれいにするると生物多様性は違う(汚い川に住む生き物も存在意義がある)。
 - ・遊べる川にしようという行動化を目的に位置付ける
 - ・往路のバスの車内での事前学習をビデオで行う(吉野川分水ビデオなど)
 - ・時間を区切って、グループごとにスタッフにインタビューする時間を設定する。
 - ・午前中の観察時間にも同じテーマを持たせておく



(2) ESDで育った力を深める特別活動でのp4c実践：あやの台小4年、中谷・辻本

- ・philosophy for children：子どもの哲学
- ・「大きな木」を使って「幸せって何だろう」
- ・対話的な学習で思考を深める
- ・振り返りシートに1時間の感想を書く
- ・「生きるってなんだろう」について最終的に話し合わせたい。
- ・学習前と後のアンケートを比較して変容を把握する。
- ・マイク機能を使って記録することで、
 - ①友達が話したことを目で確認しながら話し合うことができる。
 - ②後日、子どもの個人的な変容を記録をたどって検証することが可能となる。



ただ、マイクがあることで、子どもの発言に影響があるかもしれない。

(3) 5年生総合「自分たちの川上村は自分たちで守る」：川上小・川崎

- ①学べる防災ステーション・豪雨体験を導入に位置付けた
 - ・豪雨体験は伊勢湾台風の状況を再現したもの
 - ②現状把握
 - 台風上陸数、最近の豪雨の時間あたり降水量・土砂災害の被害行政等の防災・減災の取組
 - 村民の防災への備え
 - ③自分にできることを考え発信する、行政・村民に提案する（かみせタイム）
- ◇学習課題の設定のしかた
- ・単元の柱としての1つだけ、それとも時間ごとに複数書くべきか
 - ・伝えるという目標をもたせるために、単元の課題を明示した方がいいのでは
 - ・「3. 聞き取り」の後半で、単元の学習課題を設定してはどうか。
- ◇土砂ダム・深層崩壊の危険性 深層崩壊のメカニズムをどこかで学ぶ
- ・温暖化による危険性
- ◇雨が多い・水はけがよいという川上村の自然特性の中で栄えた林業
- 自然現象を両面からとらえる視点
- ◇提案することは、まず自分たちで行動させる。
- ◇防災・減災パンフレットでどこまで関連付けて伝えるかを考えておく。
- 率先避難者・誘い合って避難（声掛けできる子）

(4) 3年生理科 こん虫のかんさつ：郡山西小・島

- ◇教師がとってきた昆虫から、関心を高める
- ◇西小には、どんな昆虫がいるか？
 - 予想して探す
 - 昆虫カード

昆虫カードを校内地図に貼ってまとめる

- ・虫は循環の中で生きている（糞・死骸）「虫ってすごい」
- ・コンポストにゴミを入れて観察する プラスチックごみは分解されない
- ・生態系に自分も位置づいていることに気づかせたい
- ・ルーペをつかうと関心が高まる 観察カップ
- ・虫の習性や体のつくりは、理由がある。
- ・発信の仕方 昆虫カルタ、ネイチャーゲーム「私はだれでしょう」



次回第5回目は、2020年1月5日（土）13時～

内容は、先生方の実践報告会です。

授業実践を見学に行かせていただける場合は、ご連絡下さい。よろしくお願いします。